

世界の最先端 iPS 細胞

マイカーの調子が悪く 再三バッテリーが上がってしまうため、車屋さんに持ち込んだ。診断の結果、発電機がへたっており十分に発電が出来ないからだという。発電機だけを取り替えればいいが新品は 円、再生品は半額の 円だと言う。再生品でも 5~6 年は充分もつだろうと言い、車本体の方がポンコツで新品は敬遠し再生品を付けてもらった。結果すごく調子が良くなりエンジンは無くなった。

車の部品を取り替えることにより再生させる技術。これと同じことが人間の身体でも行われ、悪くなった部分をそっくり取り替えることで、元の機能を回復させることが出来るようになるかもしれない。取り替える部品は、亡くなる人を待っている臓器移植ではなく、自分の細胞から増殖させて作ったものか、あるいは多数の人に拒否反応を起こさない臓器をあらかじめ作っておいて、いつでもそれを取り出して、取り替えることにより再生させる。こんな夢のような治療法が、夢ではなく現実の治療法として行なわれるようになるかもしれない。

京都大学の山中伸弥教授らが iPS 細胞(新型万能細胞) を世界で初めて発表してから 5 年。世界中の研究機関が一様にこの技術に取り組み、激しい開発競争が繰り広げられてきた。そんな中、この度山中教授らの iPS 細胞に関する特許取得が明らかになった。欧州、米国、ロシア、その他世界各国の特許が取得された。

この技術の、実用に向けての研究は加速され、患者の細胞から増殖させた iPS 細胞により、遺伝子情報を知ることにより、薬の選定とか、副作用の有無とかの情報患者の外で知ることが出来、患者の負担が軽減される。そして究極は副作用・拒否反応のない安全な部品交換による再生医療であろう。

最大の懸念材料とされていた増殖細胞による発ガンの危険性を回避する山中教授言う “魔法の遺伝子” も発見されている。

これらの最先端の医療技術の開発は全世界が期待し、その成り行きに熱い注目を寄せている。ノーベル賞級の偉業であることには間違いない。

それよりも驚かせたことは、「この取得した特許技術の使用権を広く内外に供与する」ということ。たとえば一企業がこの特許を独占すれば、たちまちにして商業ベースに乗せ、囲み込みがあり研究、進展に制約がなされてしまう。

それをしないで、全世界で研究を進め、人類共通の願いである、病気で苦しむ人を、皆の力で救済してゆきたいという医師の本分である博愛の精神を貫く為に。

広く供与する為に特許を取得したという、日本男児の心意気、崇高な精神に感服した。

復興させるのは全日本国民

3・11 からすでに半年が過ぎた。テレビ画面の真っ黒な津波が人々の生活圏をのみ込み、破壊してゆく様子を何度も何度も息をつめて見た。そしてそのときに漠然と考えていたこと。全てを破壊され一瞬のうちに全財産を失い途方にくれる人々。それでも生き残った人は生活をしてゆかねばならず、どういう形にしろ復興しなければならない。あまりにも広い面積が無と化し、その損害は莫大なものになるであろう。どうやって、だれが、どこの資金でやるのか。被災者にその力は残されていないだろう。あれこれ考えをめぐらせてもこの難問の回答が浮かばない。

そのうちに、一番単純な方策にたどり着いた。考えあぐねていたが、もうこの方法しかないと思った。それは極めて簡単なこと。全日本国民が負担して復興させること。拠出か徴収か税金という形にするのか、その具体的な方法はよく分からないが、とにかく全国民がこぞって負担するしか道は無いと思った。日本民族だから出来ると思った。

いままさに国会ではその審議がなされているようで、為政者が我欲を捨て真に同胞のために最善の方策を練れば、きっといい結論になると信じている。

期待を込めて、見守っている。

黒いランドセル

この春まで長男が通っていた小学校に、黒いランドセルを背負ってくる少女がいた。隣の学区からの転校生だった。少女の母親と妻が親しくなり事情が分かった。彼女が四歳の夏、小一の兄が小児ガンで亡くなった。長い闘病生活で一度しか地元小学校に行けず、ピカピカのランドセルだけが残された。「大好きだったお兄ちゃん」と毎日一緒に学校に行きたいから「黒いランドセルは形見であり、兄そのものだった。」

しかし、幼いクラスメートの目には「不自然」に映り、いじめが始まる。悩んだ母親は再三、担任と話し合うが事情は変わらなかった。

むしろ「どうして黒いランドセルなのか、他の児童にきちんと話してくれなかった」と、学校への不信感を強め、小四の秋に転向した。

新しい学校ではランドセルと兄の死を「いのちを考える」授業に取り入れた。少女はいま伸び伸び通っているという。教科書では教えない身近な難問は、時としてすぐれた教材にもなり得る。教育現場の力量が問われている。

亀山浩和氏

